



(5)\* a. 我本来准备去你家参加晚会, 可是昨天突然肚子痛不能去。

b. 我本来准备去你家参加晚会, 可是昨天突然肚子痛没能去。

(君の家のパーティに行くつもりでしたが、昨日は急にお腹が痛くなって行けなかったのです。)

例文(3)(4)(5)の場合、なぜ“不”と“没”とが自由に置き換えられないのか。同じ「過去」を表現しているのに、(3)の場合にはなぜ“没”は使えず、“不”を使わなければならないのか。(4)(5)の場合にはなぜ“不”は使えず、“没”を使わなければならないのか。そして、例文(1)(2)の場合は、“不”と“没”とは文法上置き換えられるが、果たして意味的に同じかどうか。もし、違いがあるならば、一体どう違うのか。

本稿はこれらの問題について考察・分析し、助動詞の前の“不”と“没”の文法的使い分けを制約する要因と、両者の意味的相違を明らかにしたい。

まず先行研究を見てみよう。(引用文と例文の日本語訳は、特にことわらないかぎり、筆者によるものである。)

## 2. 先行研究

### 2. 1. 呂叔湘 (1980)

【比較】没有 (没) : 不

① ‘没有’用于客观叙述, 限于指过去和现在, 不能指将来。‘不’用于主观意愿, 可指过去、现在和将来。(‘没有’は客観的叙述に用いる。過去或いは現在のみを指し、未来を指すことはできない。‘不’は主観的意志に関して用い、過去、現在、未来を指すことができる。) ◇以前他没有去过 (これまで彼は行ったことがない) ◇前天他没有去 (一昨日彼は行かなかった) ◇今天他没有来 <客観的叙述> (今日、彼は来なかった: 客観的叙述) ◇前天请他他不来, 现在不请他他更不来了 <主观意愿> (一昨日彼を呼んだのに彼は来なかったんだから、今彼を呼ばなければ彼はなおさら来ないだろう: 主観的意志)

② ‘不’可用在所有的助动词前, ‘没有、没’只限于‘能、能够、要、肯、敢’等少数几个。下例都不能用‘没有、没’。(‘不’はどんな助動詞の前でも用いられる。‘没有、没’は‘能、能够、要、肯、敢’などいくつかの助動詞に限る。以下の各例とも‘没有、没’を用いることはできない。) ◇不会讲 (話がうまくない) ◇不该去 (行くべきではない) ◇不可以用 (使ってはいけない) ◇不应该问他 (彼に聞くべきではない) ◇不愿意走 (出かけたくない)

‘不’和‘助动+动’组合, 有五种形式。(‘不’と‘助动词+动词’の組み合わせ方は五通りある。) ◇不能去 (行けない) ◇能不去 (行かなくていい) ◇不能不去 (行かないわけにはいかない) ◇能不能去? (行けるかどうか) ◇能去不能? (行けるか)

‘没有、没’只有一种形式。(‘没有、没’と‘助動詞+動詞’の組み合わせ方は一通りしかない。◇没能去 (行けなかった) (p. 341)

### 2. 2. 趙淑華 (1985)

趙淑華 (1985. pp.152-163) は、例文を挙げて以下のように説明している。

A: 上星期六, 他去参观鲁迅故居了吗?

(先週土曜日、彼は魯迅の旧居を見学に行きましたか。)

B: 没有, 他没去。

(いいえ、彼は行きませんでした。)

A: 为什么?

(どうして?)

B: a. 星期六他有课, 不能去。

(土曜日彼は授業があって、行くことができません。)

b. 那天他临时有事, 没能去。

(その日、彼は突然用事があって、行きませんでした。)

答句 a 只是说明一个事实, 说明为什么没有某种可能性。是静态的。答句 b 则表示: 由于某种客观原因, 或发生了某种情况, 致使这一具体行为未得实现。给人的感觉是动态的。(中略) (回答文 a はただ一つの事実、つまりなぜその可能性がないかという事実を説明しているだけであり、静態的なものである。回答文 b はある客観的な原因、或いはある事情の発生によって、この具体的な行為が実現できなかったことを表しており、動態的なものである。)

B. 她身体不好, 这样的事, 我不敢对她说。(可以指任何时候, 任何一件这样的事, 我都不敢说。)

(彼女は体が悪いので、こんな事は彼女に言えないのです。)(すべての場合を指す。すべてのこんな事は私には言えない。)

C. 她身体不好, 这样的事, 我没敢对她说。(只指这次, 这件事, 我没敢说。)

(彼女は体が悪いので、こんな事は彼女に言えなかった。)(今回のみを指す。この事は私には言えなかった。)

### 2. 3. 劉月華等 (1988)

不と没 (有)

“不”と“没 (有)”は共に否定を表す副詞であり、動詞や形容詞の前に置いて、動作や性質・状態の否定を表すことができる。但し“不”と“没 (有)”の用法は違う。

A. “不”の用法

“不”は否定の判断を表し、動作・行為や性質・状態を否定する。多く現在や未来のことについて用いるが、過去のことについても用いることができる。(例文を略)

- (1) 現在或は未来の動作・行為、心理状態、願望、好み、可能性の否定を表す。
- (2) 習慣的或は恒常的な動作や状況を否定する。
- (3) 非動作動詞（動作動詞「动作动词」以外の動詞）否定する。
- (4) 形容詞の前に用いて性質、状態の否定を表す。

#### B. “没(有)”の用法

- (1) 動作・行為の起こったこと或は完了したことを否定する。
- (2) 形容詞の前に用いて、性質・状態の変化が起こった、或は完了したことを否定する。
- (3) 数量詞の前に置いて、そこまで到着していないことを表す。
- (4) “没”は動詞“有”の前に置いて所有或は存在を否定する。

#### N. B. (A., B.)

動詞や形容詞によっては、“不”でも“没(有)”でも否定できるものもあるが、この二種類の否定の意味には違いがある。一般的に言って、“不”を用いる場合は願望或は判断の否定を表すのに対し、“没(有)”を用いる場合は発生或は変化の否定を表す。(p.212.)

#### 2. 4. 井上優・黄麗華 (2000)

現代汉语中有“不”和“没”两个否定词。否定‘状态’和‘未然的动作’时用“不”，否定‘已然的动作及变化’时用“没”。此外，“不V”只能用来否定‘未然的动作’，而不能用来否定‘未然的变化’。这是因为‘动作’和‘变化’所描写的是两种不同层次的现象（‘动作’和‘状态’应属于同一层次的现象），而‘动作’和‘变化’的这种区别，在汉语动词的‘体’中又起着十分重要的作用。(p.113.)

（現代中国語には“不”と“没”という二つの否定詞がある。‘状態’や‘未然的動作’を否定するには、“不”を用い、‘已然的動作及び変化’を否定するには、“没”を用いる。また、“不V”は‘未然的動作’を否定する場合しか用いられないが、‘未然的变化’の否定には用いられない。というのは、‘動作’と‘変化’に描写されるものがそれぞれ次元の違う現象であるからである。そして、このような‘動作’と‘変化’の違いは、中国語の‘体’〈動相〉において大変重要な役割を果たしているものである。）

#### 2. 5. 劉月華 (1992)

“没(有)”または“不”を動詞や動詞連語の前に用いている時、“没(有)”が否定するものは動作の発生、完成および結果などであり、“不”が否定するものは事実や意志、願望の否定である。

……そのため、“没(有)”は過去と現在のことを叙述する文中に使われるだけであり、未来のことを叙述

する文中に用いることはできない。“不”は時間の制限を受けない。(p.19.)

形容詞や心理活動をあらわす動詞および状態動詞の前では、“没”を用いると、その状態や変化がまだ発生していないことをあらわすが、この状態や変化は通常の習慣や常識からいって、当然発生しているべきことであつたり、話し手が当然発生してしかるべきだと考えているものである。しかし、“不”が否定するのは事実であり——状態ではない。(p.20.)

#### 2. 6. 石毓智 (2001)

……事实上，“不”也可以否定过去的行为，“没”也可以指将来。(p.312.)

（実際には、“不”は過去の行為をも否定することができる。“没”は未来を指すこともできる。）

### 3. 問題点

呂叔湘(1980)の記述は“不”“没”と「助動詞+動詞」の組み合わせ方を列挙するに留まっていて、「助動詞+動詞」を否定する“不”と“没”の文法的使い分けを制約する要因、或いは意味的相違については全く触れていない。

趙淑華(1985)は、“動態”と“靜態”という概念に明確な定義を与えていないし、“動態”の全過程、その過程における動的各局面、及びどの局面において「助動詞+動詞」を“没”で否定できるのかなどについても明確に示していない。その上、趙淑華の挙げた例文は、文法上“不”と“没”が置き換えられないのではなく、“不”と“没”の使い分けを制約する文法的要因さえも明確に示していない。

本稿では趙淑華の先行研究を踏まえ、呂叔湘が挙げたいくつかの助動詞を手がかりとして、それらを否定する“不”と“没”の使い分けを文法的に制約する要因と、意味的相違について考えてみたい。

### 4. 方法

朱繼征(1993a)では、「“不”と“没”の文法的使い分けを制約する要因は“動詞諸相”である。“動相”においては、否定を表すのに“不”を用いることはなく、“没”を用いなければならない。“非動相”においては、“没”を用いることはなく、“不”を用いなければならない。」と指摘している。本稿は朱繼征(1993a. 1993b.)にしたがい、中国語の動詞諸相を“動相”と“非動相”に分けて考察する。

### 5. 分析

一部の文法書では、助動詞は“了”・“着”・“过”を伴うことができないので、助動詞は動相(aspect)を表現することができないとしている。

本章は助動詞とその後の動詞を一つのまとまった述語構造として捉える。この「助動詞+動詞」の述語構

造は“了”・“着”・“过”を伴うことができないが、文脈或いはコンテクストの助けによって、「将然相」の意味を表現することができる。と考える。

「将然相」について、朱継征(1993a, 1993b.)では次のように定義している。

「将然相とは、実際には動作・作用はまだ開始していないが、すでに実現態勢に入っている過程を指す。言い換えれば、ある動作はまだ始まっていないのに、その始まろうとする気配、前兆、勢いなどが現れている段階を表す。

例えば、列車はまだ発車していないが、発車の放送が聞こえたり、発車のベルが鳴ったり或いは慌ただしくかけ込み乗車しようとする乗客の姿が見えたりする場合、話者は“快开车了”、“要开车了”、“就要开车了”、“马上就要开车了”、“眼看就要开车了”などの表現を用いて、『発車する』という動作の『動き』の「将然相」の過程を表現することができる。」

そして、「不」と“没”の使い分けを制約する要因は動詞諸相である。“動相”においては、否定を表すのに“不”を用いることはなく、“没”を用いる。“非動相”においては、否定を表すのに“没”を用いることはなく、“不”を用いる。」朱継征(1993)と指摘している。従って、本稿では“非動相”表現の「助動詞+動詞」を否定するのに“不”を用いる。「将然相」の意味を含意する「助動詞+動詞」を否定するのに“没”を用いると考える。

呂叔湘(1980.)の挙げた助動詞“能”、“能够”、“肯”、“敢”、“要”などの中で、“没”で「要+動詞」を否定することはないので、“要”という助動詞は考察対象の中から除外する。“能”、“能够”、“肯”、“敢”などの助動詞は、意味的には違いがあるが、“不”或いは“没”で否定されることが可能であるという点で共通している。次に“不”或いは“没”と「助動詞+動詞」との関係について見てみよう。

### 5. 1 “不”しか使えない場合

- (6) a. 恐龙只能下蛋, 不能直接生小恐龙。  
(恐竜は卵しか産めず、直接赤ちゃんを産めない。)
- \* b. 恐龙只能下蛋, 没能直接生小恐龙。
- (7) a. 有时候我不敢回家, 我怕见妈妈。(《老》P8)  
(時々母が恐くて、私は家に帰れなかった。)
- \* b. 有时候我没敢回家, 我怕见妈妈。
- (8) a. 妈妈有时候给我点心钱, 我不肯花, 饿着肚子去上体操, 常常要晕过去。  
(母は時折、私に小遣いをくれたが、私は決して使わなかった。お腹をすかしたまま体操に行き、目眩をおこすこともしばしばであった。)(《老》P8)
- \* b. 妈妈有时候给我点心钱, 我没肯花, 饿着肚

子去上体操, 常常要晕过去。

例文(6)は事象の属性を、例文(7)(8)は過去における経常的な現象を表すもので、いずれも動相と関係なく、非動相的な表現である。この場合、「助動詞+動詞」を否定するには、“没”は使えないので、“不”を使わなければならない。

### 5. 2. “没”しか使えない場合

- (9) \* a. 她要笑, 不能笑出来。  
b. 她要笑, 没能笑出来。(《老》P58)  
(彼女は笑おうとしたが、笑うことはできなかった。)
- (10) \* a. 妈妈哭着递给我她头上的银簪——只有这一件东西是银的。我知道, 她拔下过来几回, 都不肯交给我去当。这是妈妈出门子时, 姥姥家给的一件首饰。  
b. 妈妈哭着递给我她头上的银簪——只有这一件东西是银的。我知道, 她拔下过来几回, 都没肯交给我去当。这是妈妈出门子时, 姥姥家给的一件首饰。(《老》P4)  
(母さんは泣きながら私に、髪にさした銀の簪を手渡した——ただこれだけが銀なのだ。私は知っている、彼女が何度もそれを髪から抜いてもどうしても私に質屋に持っていかせることができなかったことを。それは母さんが嫁に来る時実家で持たせた髪飾りなのだ。)
- (11) \* a. 她想死, 可几次都不能死成。  
b. 她想死, 可几次都没能死成。  
(彼女は死にたくて何度も死のうとしたが、死にきれなかった。)
- (12) \* a. 这本小说我看了三天也不能看完。  
b. 这本小说我看了三天也没能看完。  
(この小説を三日読んだが、まだ読み終えていない。)
- (13) \* a. 饭太少了, 我不能够吃饱。  
b. 饭太少了, 我没能够吃饱。  
(ご飯が足りなかったので、お腹いっぱいにならなかった。)

例文(9)~(13)の“她要笑”、“她拔下过来几回”、“可几次”は将然の意味を表し、その後の動作が既に実現態勢に入っていたことを認めて、偶発的、一時的原因によってその動作を実現させることができなかったことを含意する。(12)(13)は、動作の実行を認めた上で、その動作が終結或いは結果まで至らなかったことを表す。(9)~(13)は、いずれも動的動きを含意するものなので、文法上“不”は使えず、“没”を使わなければならない。

### 5. 3. 否定の範囲と意味上の違い

「助動詞+動詞」の表す意味は、「行動意識」と「行

動実行」という二段階に分けられる。「行動意識」は助動詞で表され、ある動作を行う能力、許可、意志、勇気或いは願望等のことを指す。「行動実行」は動詞で表され、ある動作が行われる過程を指す。

(14) a. 我不敢来, 可又不得不来。  
(私は来るつもりなどなかったが、かといって来ないわけにもいかなかった。)

\* b. 我没敢来, 可又不得不来。

(15) a. 我不肯在妈妈面前哭, 可又忍不住泪水。  
(私は母に涙など見せたくなかったのに、堪えきれずに涙があふれてきた。)

\* b. 我没肯在妈妈面前哭, 可又忍不住泪水。

(16) a. 我不肯哭, 可是泪自己往下流。  
(《老》p.14.)  
(泣きたくなかないけど、涙が勝手に出てくるんだ。)

\* b. 我没肯哭, 可是泪自己往下流。

(17) a. 我不敢吃蛇, 更不敢吃猫。等我吃完了“龙虎斗”, 他才告诉我, 龙就是蛇, 虎就是猫。  
(私は蛇など食べる勇氣もないし、猫なんでもっと嫌だった。彼は私が「龍虎闘」を食べ終えるのを待って私に言った。「龍」とは蛇で、「虎」とは猫のことだと。)

\* b. 我没敢吃蛇, 更没敢吃猫。等我吃完了“龙虎斗”, 他才告诉我, 龙就是蛇, 虎就是猫。

例文(14)~(17)の場合、“不”は助動詞が表す「行動意識」の段階だけを否定し、動詞が表す「行動実行」の段階には直接及ばない。この場合、“不”を“没”に置き換えることはできない。(20)を“我没敢来”にすると、“可又不得不来”を続けられなくなるのは、“没”の否定範囲が、「行動意識」の段階だけでなく、「行動実行」の段階まで及び、“来”をも否定するからである。

#### 5. 4. 文法上の置き換えと意味上の違い

(18) Q: 你跟同事借钱了吗?  
(あなたは同僚にお金を借りましたか?)  
A 1: a. 唉, 老李是个有名的吝啬鬼, 我可不敢跟他借钱。

(ええ、李さんは有名なケチン坊ですからね、彼に借金を申し込む気はありませんよ。)

\* A 1: b. 唉, 老李是个有名的吝啬鬼, 我可没敢跟他借钱。

Q: 那小王呢?  
(それなら、王君の方は?)

\* A 2: a. 我去找小王时, 听说他母亲病重住院要用钱, 我也不敢跟他借钱。

A 2: b. 我去找小王时, 听说他母亲病重住院要用钱, 我也没敢跟他借钱。  
(王君の所に行ったら、お母さんが重

病で入院するのにお金がいるということなので、お金のことは切り出せませんでしたよ。)

(19) Q: 昨晚宴会上你喝酒了吗?  
(夕べ宴会でお酒を飲みましたか?)

A 1: a. 我不敢喝酒。因为我有胃溃疡, 不敢喝酒。

(飲めませんよ。胃潰瘍なので、とても飲めません。)

? A 1: b. 我不敢喝酒。因为我有胃溃疡, 没敢喝酒。

\* A 2: a. 我没敢喝酒。昨天我女朋友一定要我开车送她回家, 我不敢喝。

A 2: b. 我没敢喝酒。昨天我女朋友一定要我开车送她回家, 我没敢喝。

(昨日はガールフレンドが車で家まで送れと言うので、飲むに飲めなくなりました。)

(20) Q: 小李的婚礼你去了吗?  
(李さんの結婚式に参加しましたか?)

A 1: a. 我不能去。我跟他一见面就打架, 他的婚礼我可不能去。

(彼とは顔を合わすと即喧嘩ですから、彼の結婚式なんて行きませんよ。)

\* A 1: b. 我不能去。我跟他一见面就打架, 他的婚礼我可没能去。

\* A 2: a. 我给他们的结婚礼物都准备好了, 可那天我突然有急事, 不能去成。

A 2: b. 我给他们的结婚礼物都准备好了, 可那天我突然有急事, 没能去成。

(結婚祝いのプレゼントまで用意しておいたのに、その日急に用事ができて、行けませんでした。)

#### 6. ま と め

「助動詞+動詞」を否定する場合、動詞文を否定する場合と同じように、“不”と“没”の文法的使い分けは動詞諸相の制約を受けている。動相表現においては、否定を表現するのに“不”を用いることはなく、“没”を用いなければならない。非動相表現においては、否定を表現するのに“没”を用いることはなく、“不”を用いなければならない。

一般の文法書、或いは教科書において、“能”、“能够”、“肯”、“敢”などの助動詞を“情態助動詞”として取り扱っている。つまり、これらの“情態助動詞”は動作を表すものではなく、動作を行う人物の「心理的状态」或いは「行動意識」を表すものである。

“不”はこの「心理的状态」或いは「行動意識」の段階だけを否定し、「行動実行」、「実際の行動」或いは「行動の已然」の段階までには直接に及ばない。“没”は「心理的状态」或いは「行動意識」の段階を

認めた上で、その「行動実行」或いは「行動の已然」の段階を否定する。

## 7. 結論の再検証

最後に、『老舎選集』の実例を用いて、以上の結論が成立するかどうかを再検証してみる。

(21) 校长愿意帮助我。她不能给我钱，只能供给我两顿饭和住处——就住在学校和老女仆作伴儿。(《老》P10.)

(校長は、私を助けたいと思っているか、お金は出せないで、二食の飯と住む所しか提供できない。つまり学校に泊まって年老いた下女の相手をするのだ。)

例文(21)の場合、「私を助けたいと思っている校長は、二食の飯と住む所しか提供できない。」という意味である。つまり、校長の「心理的状态」或いは「行動意識」としては、最初からお金を貸してくれる「つもり」或いは「心の準備」はなかったというわけである。しかも、「只能」は「不能」と対照的に使われているので、この文では、文法的・意味的な構文環境の制限によって、「没能」は使えず、「不能」を使わなければならない。

(22) 我只能顾眼前，没有将来，也不敢深想。(《老》P11.)

(私は目の前のことしかかまえない。将来もないし、深く考えたくもない。)

例文(22)の場合、「目の前のことしかかまえない。しかも、将来もない私は深く考える『心の余裕』がない」という意味である。否定詞「不」の射程は「敢」という「心の余裕」までだけであり、行動としての「想」までには及ばない。この文においては、「我只能顾眼前，没有将来」という文脈の制限によって、「没敢」は言えず、「不敢」を言わなければならない。

(23) 我不肯哭，可是泪自己往下流。(《老》P14.)  
(泣きたくなんかないけど、涙か勝手に出てくるんだ。)

例文(23)の場合、「私は泣く『つもり』がなかった」という意味である。否定詞「不」の射程は「哭」という動作までにはおよばず、「肯」という「行動意識」だけを否定している。よって、「可是泪自己往下流」という後接文は矛盾なく成立する。

逆にいえば、「没肯」なら、「哭」という行動を否定することになり、「可是泪自己往下流」という後接文とは矛盾になるので、この文は成立できなくなる。

よって、この文では、意味的制限により、「没」は使えず、「不」を使わなければならない。

(24) 当天晚上，他给我送了两块钱来，我不肯收，他说这是他婶母——胖校长——给我的。

(《老》P15.)

(その日の夜彼は二元持ってきたが、私は受け取ろうとしなかった。彼が言うには、これは彼

のおばさん——太った校長——が私にくれたものだそうだ。)

例文(24)の場合、「私は受け取る『つもり』はなかった」、逆にいえば「私は受け取らない『つもり』だった」、或いは「私は受け取らない『決心』をした」という意味である。「不」の射程は「收」という動作までには及ばないが、その「つもり」或いはその「気持ち」だけを否定している。よって、「收」という動作が実行されたかどうかについては言及していない。実際には、「收」という動作が実行されても、前の文脈とは矛盾せず、この文は成立するわけである。もし、「没肯」というなら、「他说这是他婶母——胖校长——给我的」という後接文とは矛盾することになる。したがって、この文においては、意味的制限によって、「没」は使えず、「不」を使わなければならない。

(25) 我不敢向公安局去打听，我又不能不打听，……(《老》P83.)

(警察署に聞きに行く勇氣はないが、聞きに行かないわけにもいかない……)

例文(25)の場合、「最初から勇氣はなく、警察署に訊ねに行く『気』はなかった」という意味を表している。「不」は「敢」という「勇氣」だけを否定するが、「去打听」という行動を否定していない。よって、「我又不能不打听」という後接文とは矛盾せず成立する。もし、「没敢」というなら、「我又不能不打听」という後接文とは矛盾することになるので、成立できなくなる。この文において、「没」は使えず、「不」を使わなければならない。

(26) 最初，我连屋门也不敢出，我怕见那个又明又暖的太阳。(《老》P107.)

(初め家の中から出る勇氣さえなかった。あの明るくて暖かい太陽を見るのが恐かったのだ。)

例文(26)の場合、「不」は「敢」という「家の中から出る勇氣」だけを否定するが、「出」という動作には言及していない。しかし、この文には「最初」という言葉が文頭にあるので、「最初」と対比する「現在」の状況としては、「家の中から出ている」という意味を読み取れる。したがって、この文においては、意味的制限によって、「没」は使えず、「不」を使わなければならない。

(27) 以前，我对什么神仙都不敢得罪；现在，我什么也不信，连活佛也不信了。(《老》P107.)

(以前私はどんな神様でも感情を損ねる勇氣がなかったが、今は何も信じない。活仏さえも信じない。)

例文(27)の場合、「不」は「どんな神様でも感情を損ねる勇氣」という「心理的情態」だけを否定しているが、「得罪」という行動までには及ばない。しかも、「现在，我什么也不信，连活佛也不信了」という後接文によって、「得罪」という行動が実行されている意味を読み取れる。したがって、この文においても、

“没”は使えず、“不”を使わなければならない。

㉘ 老妈妈没敢跟进来，到厨房去泡茶。

(《老》P56.)

(おばあさんは、ついて来る勇気がなく、台所へ行きお茶をいれた。)

例文㉘の場合、「おばあさんは、ついて来る気があった」という意味を読み取れるが、“跟进来”という動作が“没”によって否定されている。したがって、この文においては、“不”は使えず、“没”を使わなければならない。

㉙ “妈，妈！”小女孩轻轻的叫，连扯妈妈的袖子：“咱们上屋里去！”

廉伯伯太太轻轻揉了揉小屋子一下，没敢动。

(《老》P80-81.)

(「お母さん！」と女の子は軽く呼び、母親の袖を引っばって言った。「家の中に入ろうよ！」)(廉伯伯おばあさんは軽く女の子をつねって、動かなかった。)

例文㉙の場合、“动”という行動をしようとしていたことを読み取れるが、“没”の否定によって、“动”という行動が実現できなかったという意味になる。

㉚ 这在早年间叫作“抹稀泥”，现在的新名词应叫着什么，我还没能打听出来。(《老》P111.)

(これは、昔「いいかげんにまるくおさめようとする」と言ったが、今の新しい言葉で何と言えればいいのか、私はまだ聞き出せていない。)

例文㉚の場合は例文㉘㉙と同様に説明できる。つまり、“没”は「助動詞+動詞」という構造を否定する場合、その助動詞の表す動作主の「行動意識」があったことを認めた上で、その動詞の表す行動の実現することを否定する。

「例文出典」《老》=『老舍选集·第二卷』。四川人民出版社(1982.7.)。

注：本文中の例文の成立、不成立の判定については、インフォーマントとして下記の10名の中国語のネイティブスピーカーに御協力いただいた。

柴森、陈淑梅、鲁晓琨、沈国威、孙敦夫、陶卉、田禾、荀春生、杨凯荣、杨立明

心より感謝申し上げます。

## □参考文献□

中国語の文献。【書籍】：

刘 勳宁1998.『现代汉语研究』，北京语言文化大学出版社。

刘月华等1983.『实用现代汉语语法』。北京：外语教学与研究出版社(相原茂監訳『現代中国語文法総覧(上)』。日本：くろしお出版<1988.3>。

『現代中国語文法総覧(下)』。日本：くろしお出版<1991.9>。

刘月华等1989.『汉语语法论集』，现代出版社。

呂 叔湘1980.『现代汉语八百词』，商务印书馆(牛島徳次監訳『中国語用例辞典——現代漢語八百詞日本語版』，東方書店1992.)。

呂 叔湘1984.『汉语语法论文集』，商务印书馆。

石毓智、李讷2001.『汉语语法化的历程——形态句法发展的动因和机制』，北京大学出版社。

【論文】：

金 立鑫1998.「试论“了”的时体特征」，『语言教学与研究』第1期，105-120頁。

木村英樹1997.「‘变化’和‘动作’」，『橋本万太郎記念中国語学論集』，内山書店。

李讷、石毓智1997.「论汉语体标记诞生的机制」，『中国语文』第2期，82-96頁。

刘 勳宁1988.「现代汉语词尾“了”的语法意义」，『中国语文』5期，321-330頁。

刘 勳宁1999a.「现代汉语的句子构造与词尾“了”的语法位置」，『语言教学与研究』第3期，4-22頁。

刘 一之1995.「“了”的语法意义」，『中国語学』242号，日本中国語学会，56-63頁。

刘 月华1988.「动态助词“过2 过1 了1”用法比较」，『语文研究』1期，6-16頁。

呂 文华1979.「谈语气助词“了”」，『语言教学与研究』试刊4集，47-50頁。

魯 晓琨1996.「“V完”和“V好”」，『中国語学』243号，日本中国語学会，49-55頁。

三宅登之1994.「关于“着”表示的语法意义」，『県立新潟女子短期大学研究紀要』No31, 101-113頁。

容 新1997.「普通话中助词“了”所表达的时间范围及时态」，『中国语言学论丛』第1辑，49-66頁。

贊井唯允2003.「对外汉语教学中的“V了O”和“VO了”格式」，『北京师范大学学报(社会科学版)』2003年车刊，150-153頁。

史 有為2002.「对“了1”的再認識」，『日本語と中

国語のAspect』白帝社, 145-158頁。

- 王 还1990. 「再谈现代汉语词尾“了”的语法意义」, 『中国语文』第3期, 180-181頁。
- 王 松茂1981. 「汉语时体范畴论」, 『齐齐哈尔师范学院学报』第3期, 65-76頁。
- 王 直1957. 「时态助词“了”和语气助词“了”」, 『语文知识』8期, 29-32頁。

#### 日本語の文献

##### 【書籍】:

- 古希記念行事委員会2000. 『荒屋勸教授古希記念中国語論集』, 白帝社。
- 呂 叔湘1954. 『中国語法學習』(大原信一、伊地智善継訳), 江南書院。
- 日中対照言語学会2002. 『日本語と中国語のAspect』, 白帝社。
- 太田辰夫1995. 『中国語文論集——語学篇——汲古選書10』, 汲古書院。
- 藤堂明保、相原茂1985. 『新訂 中国語概論』, 大修館書店。
- 楊 凱榮1989. 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』, くろしお出版。
- 山梨正明2000. 『認知言語学原理』, くろしお出版。

##### 【論文】:

- 相原 茂2002. 「“不V了”の文法」, 『中国語』4月号, 内山書店, 63-69頁。
- 荒川清秀1981. 「中国語動詞に見られる幾つかのカテゴリ」, 『愛知大学文学論叢』第67輯, 愛知大学文学会, 1-25頁。
- 陳 淑梅1997. 「『~テイル』の中国語訳についての一考察」, 『言語文化コミュニケーション』20号, 慶応義塾大学。
- 古川 裕1998. 「未然と已然」, 『中国語』2月号, 内山書店, 14-18頁。
- 玄 幸子2002. 「Aspectと“了”」, 『中国語』1月号, 内山書店, 58-60頁。
- 平井和之1991a. 「“~起来”の表す意味」, 『東京外国語大学論集』42号, 東京外国語大学, 147-164頁。
- 井上優、黄麗華2000. 「否定から見た日本語と中国語のAspect」, 『現代中国語研究』第1期, 朋友書店, 113-122頁。
- 木村英樹1977. 「『了』と『文終止』の問題をとりあげて」, 『教学』No4日中学院出版局, 30-33頁。
- 木村英樹1982. 「テンス・Aspect——中国語」, 『講座日本語学11: 外国語との対照II』所収, 明治書院, 19-39頁。
- 松村文芳1997. 「動態助詞“了”の意味特徴について」, 『中国語』5月号, No448, 58-60頁。
- 三宅登之1989. 「“V的”と“了”——“的”構造における“了”の生起に関して——」, 『中国語学』236号, 日本中国語学会, 53-60頁。
- 三宅登之1991. 「動補構造と“了”の省略」, 『中国語学』238号, 日本中国語学会, 97-105頁。
- 大滝幸子1994. 「動詞の分類と述語目的語構造, Aspect」, 『中国語』10月号, No417, 18-22頁。
- 大滝幸子1995. 「動詞を述語とする」, 『中国語』2月号, 内山書店, 18-22頁。
- 佐々木勲人2002. 「“了”を二つ使うとき」, 『日本中国語学会第52回全国大会予稿集』, 日本中国語学会, 145-149頁。
- 佐藤晴彦1976. 「〈開始〉について」, 『人文研究』第28巻第4分冊, 24-40頁。
- 杉村博文2000. 「“了”の意味と用法」, 『中国語』3月号, 内山書店, 60-62頁。
- 杉村博文2002. 「中国語における部分の前景化と主体化」, 『日本中国語学会第52回全国大会予稿集』, 日本中国語学会, 39-42頁。
- 玄 宜青1998. 「“不能~”と“~不了”」, 『中国語』7月号, 内山書店, 28頁。
- 朱 継征1993a. 「中日両語の否定表現と動詞諸相との関係に関する対照研究」, 東京都立大学(修士論文1993. 1. 11.)。
- 朱 継征1993b. 「中国語動詞の『動相』と『静相』について」, 『教学』15号, 日中学院出版局, 25-38頁。
- 朱 継征1994. 「中国語の『吗<ma>』と『呢<ne>』について」, 『教学』16号, 日中学院出版局, 1-18頁。
- 朱 継征1995a. 「中国語の副詞“再(zai)”と“又(you)”の意味記述——動詞諸相との関係に関する一考察——」, 『日本語研究』15号, 東京都立大学, 88-97頁。
- 朱 継征1995b. 「中国語の『助動詞+動詞』と否定——“不”と“没”の文法的使い分けと意味的分析を中心に——」, 『中国語学』242号, 日本中国語学会, 32-37頁。
- 朱 継征1995c. 「中国語の否定詞“不(bu)”と“没(meí)”について」, 『東瀛求索』第7号, 中国社会科学研究会, 79-86頁。
- 朱 継征1995d. 「日本語の未然相について——「~しそうだ」「~しようとしている」「~しかけている」を中心に——」, 1995年度東京都立大学国語国文学 会口頭発表(1995年7月8日於東京都立大学本

- 部棟1階大会議室)。
- 朱 継征1996. 「日本語動詞の『動相 (aspect)』について」, 『東瀛求索』第8号, 中国社会科学研究会, 227-234頁。
- 朱 継征1997. 「中国語と日本語の動相 (aspect) について」, 『新潟経営大学紀要』3号, 273-286頁。
- 朱 継征1998a. 「存在文における“着”と“了”について」, 『富山大学人文学部紀要』第28号, 161-168頁。
- 朱 継征1998b. 「中国語の進行相について——“在~”と“~着”の文法的使い分けと意味的分析を中心に——」, 『中国語学』245号, 日本中国語学会, 102-111頁。
- 朱 継征1999a. 「中国語の完了相について——“~完”と“~过”の文法的使い分けと意味的分析を中心に——」, 『中国語学』246号, 日本中国語学会, 118-125頁。
- 朱 継征1999b. 「“过1”と“了1”について」, 日中言語対照研究会第2回大会口頭発表(1999年6月5日於大東文化会館)。
- 朱 継征1999c. 「残存を表す“~着”と“~了”について」, 日本中国語学会第49回全国大会口頭発表(於お茶の水女子大学)。
- 朱 継征2000. 「中国語の“~着”と“~了”について」, 『新潟大学経済学年報』第24号, 145-161頁。
- 朱 継征2001. 「中国語の“~过1”と“~了1”について」, 『新潟大学経済学年報』第25号, 81-92頁。
- 朱 継征2002. 「“要~了”と“快~了”について」, 『新潟大学経済学年報』第26号, 103-111頁。
- 朱 継征2003. 「中国語の動詞分類」, 『新潟大学経済学年報』27号, 123-150頁。
- 朱 継征2004a. 「持続相について」, 『新潟大学経済学年報』第28号, 89-106頁。
- 朱 継征2004b. 「中国語の起動相について——“开始~”と“~起来”の文法的使い分けと意味的分析を中心に——」, 『中国語学』251号, 日本中国語学会, 114-135頁。